

日本医療福祉生協連近畿ブロック有志 ボランティアセンター 東日本大震災支援ニュース

NO. 8 2011年5月12日 発行担当 神戸医療生協・森

しばた協同クリニック職員、泥だし・片付けに大奮闘

午後は花笠区の組合員Yさん自宅前の側溝の泥出しや近隣のお宅の片付けのお手伝いに入りました。クリニックから診療と会議の間をぬって7名の職員が参加、汗をかきながら大奮闘しました。

男性陣は側溝のコンクリートの蓋を外した後、溝に溜まった水を含んだ粘り気のある泥と砂をスコップですくい出す。スコップを入れるたびに何とも言えない臭いが漂います。近畿ブロック支援チームの男性陣に薬局の事務職員Cさんが加わり、一気にペースアップ。道路上や庭に堆積した泥やゴミのかき出しに女性陣を中心に大奮闘。ご近所からも声がかかり、倒壊したビニールハウスの解体などを行いました。

クリニックから参加した職員の中には、津波を受けた区域に入るのは初めてと言う職員も多く、被害の大きさにショックを受けたとの声も出ています。



ロコミの力が大事、訪問時に情報提供していきましょう

各種支援制度の申請をされていない方が多いようです。住宅の再建・修理費用を補助する被災者生活再建支援制度の申請は三分の一程度、弔慰金の申請も6割程度にとどまっています。近隣の市町村に避難している方や自宅に戻られて生活されている方などで制度をご存知で無い方が多いのかもしれませんが、また、山元町ではアスベスト被害防止のため防塵マスクを無償配布していますが、あまり取りに来られていないとの事です。

甚大な被害により情報が十分に行きわたり難しくなっている中で、生活再建に有効な情報や健康を守るために必要な情報をロコミで広げて行くことも必要です。訪問・対話時に情報を提供していきましょう。